

副病院長 山城 隆

大阪大学歯学部附属病院は、スマートデンタルホスピタルという産学連携プロジェクトを、大阪大学サイバーメディアセンター、NECシステムプラットフォーム研究所とともに立ち上げました。

プロ棋士を負かしてしまう囲碁や将棋ソフトが誕生し、自動車の自動運転が検討されるなか、人工知能 (AI) 技術が様々な分野で、世間を賑わせはじめています。このプロジェクトは、大阪大学歯学部附属病院がこれまで蓄積したビッグデータを人工知能 (AI) による機械学習 (ディープラーニング) を通じて、より安全で安心な歯科医療の提供に役立てようとするものです。

しかし、私たちが扱おうとするビッグデータは患者様の個人情報であり、その保護と適切な利活用は大きな課題です。専門が異なる3つの組織がタッグを組んで、この難しい課題に取り組んでいきます。そして、より安全で安心な新たな歯科治療を提供できるよう頑張ってまいります。ますますのご支援をお願い申し上げます。

内面

- 特集 1.
 - ・「国際歯科医療センター活動報告」
 - ・「第1回 インターナショナルアドバイザリーボード開催」
- 特集 2.
 - ・「口腔インプラントセンター開設のご案内」
 - ・「口腔がんセンター開設のご案内」
- 特集 3.
 - ・「Science café@大阪大学歯学部附属病院開催」

お口の相談コーナー お口のマメ知識

裏面

- 2018年1~3月の統計情報
- 病院概要



国際シンポジウム in タイ

2018年1月、大阪大学と大阪大学間協定を結んでいるチュラロンコン大学において“Current and Future Challenges in Dentistry”と題し、大阪大学歯学部附属病院国際歯科医療センター主催の第3回国際シンポジウムを行いました。現地の歯学部教員・大学院生・学部学生等多数の参加者があり成功裡に終了しました。

シンポジウムでは、チュラロンコン大学、マヒドン大学、大阪大学の研究者が、歯周病治療の分野で期待される再生医療、口唇裂・口蓋裂の患者さんへの新たな歯科矯正治療法、舌癌の放射

線治療、また難病でお困りのお子さんに対する歯科的なアプローチなど、各大学が保有する最先端の歯科医療について講演し、活発な意見交換が行われました。特に村上伸也病院長が行った、大阪大学発・世界初の歯周組織再生剤「リグロス®」開発についての講演終了後は、参加者より多数の質問が寄せられました。

シンポジウム翌日には、同じくバンコク市内にあるマヒドン大学歯学部長を表敬訪問し今後の両大学間の交流計画等について懇談しました。続いて、歯学部附属病院を訪問し、最新の設備が備わった歯学部学生のための臨床研修施設等を視察しました。

香港大学で実施した昨年

のシンポジウムに続き、本年のシンポジウムを通じてチュラロンコン大学、マヒドン大学共同の臨床研究や国際共同治験を推進し、アジアにおける歯科医療の発展のために、今後も三者で協力していくことを確認しました。

このような国際連携を推進することで、歯科医療分野の国際化に貢献し、大阪大学歯学部附属病院にいられている患者さんが、海外に行かれても安心して現地で治療が受けられるよう、体制を一層整備してまいります。



「第1回インターナショナルアドバイザリーボード開催」

2018年2月、本院の更なる国際化を促進することを目的とした、第1回歯学部附属病院インターナショナルアドバイザリーボード (International Advisory Board, IAB) を開催しました。

アドバイザリーボードには、様々な分野で活躍されている日本在住のトルコ人、デンマーク人、アメリカ人の3名の有識者をアドバイザーとしてお招きし、院内を見学

していただきながら、外国人患者

の視点から本院に対するご要望等をヒアリングしました。当日は院内表示におけるアドバイスや、院内施設について外国人患者から見た率直な疑問点や歯科人間ドックの実施など多くのご提案やご意見をいただきました。

今回伺ったアドバイスやご提案については、全て院内で検討し、大阪大学歯学部附属病院の改善を図ってまいります。

また、今後もこのインターナ

ショナルアドバイザリーボードを継続的に開催し、大阪大学歯学部附属病院にいられている全ての患者さんに「以前よりも快適な病院になった」と感じていただけるよう歯科医師、スタッフが協力して努めてまいります。



口腔インプラントセンター

センター長：村上 伸也 (病院長)
副センター長：中野 環
和田 誠大
竹立 匡秀

インプラント治療(チタン製の人工骨)が利用されるようになって半世紀以上たち、現在では、歯の欠損に対して非常に大きな役割を果たしています。当院でも90年代初めよりインプラント治療に取り組み、これまで良好な治療結果を提供してきました。また2010年4月には、病院3階に近未来歯科医療センターを設立し、インプラント治療を希望される患者様にとって、安全か

口腔がんセンター

センター長：鶴澤 成一
副センター長：古郷 幹彦
村上 秀明

口腔がんは、国民の高齢化に伴い、近年増加傾向にあり、年間罹患者数は約7,000名にものぼります。そして、口腔がんの多く(70%以上)は歯科医院(開業歯科医)で発見されております。今回、本学における口腔がん治療のさらなる発展及び安全性の向上を目指して、国立大学で西日本唯一の歯学部附属病院に相応しい口腔がん治療体制を備えた口腔がんセンターを開設することになりました。本センターでは、歯学部附属病院の特徴を生かした包括的口

お口の相談
コーナー



「夜中に歯ぎしりをしているようで、周りの人に指摘されたり、突然歯の根が折れて抜歯になったりしたことがあります。予防法はありませんか?」

口腔補綴科 講師 瑞森崇弘

睡眠中の歯ぎしりは他人への騒音となるだけでなく、自分の歯や筋肉、顎関節にも有害です。また、音が出ないくいしばりのこともあり、これは本人に自覚がなく他人も気づかないことが多いです。

無意識に行われるため、気がつかないままに歯に外傷的な力として働き、歯の異常な摩擦や破折、かぶせ物などの破損、さらには歯根破折による抜歯の原因となります。他にも、アゴの筋肉の疲労や痛み、口が開きにくいなどの顎関節症の重要な原因であり、筋肉や骨格の過成長から顔貌に影響を与えることもあります。さらに、歯ぎしりの騒音が同室者の睡眠妨害にな

ります。

以前は抜歯の原因といえば、虫歯を放置した結果であったり、歯周病であったりしましたが、歯科衛生知識の向上等によりこのような疾患は減少しました。これに代わって、健康な歯の歯根破折による抜歯が増加しています。睡眠中に歯ぎしりやくいしばりをしている時には、起きている時と違って力の制御がされないため、時には意識して出す力よりも異常に大きな力が発生します。また、食事時よりも長時間にわたって繰り返し力が発生するため、歯根破折の最大の原因になると考えられます。

なぜ歯ぎしりをするのかの原因は不

明で、かつてはかみ合わせが影響すると考えられていましたが、現在は否定されています。根本的な治療法は見つからず、対症療法的に写真のようなマウスピースを使用します。マウスピースをしても歯ぎしりがおさまらないこともあります。歯の保護と歯ぎしり音の抑制には効果があります。気になる方は、お気軽に当院の担当医にお尋ねください。



一開設のご案内 ◆

つ安心してインプラント手術がお受けいただける環境を整備してきました。そして本年4月より、初診からメンテナンスに至るまで包括的なインプラント治療を提供すべく、口腔インプラントセンターを新たに設立しました。

これからも我々センタースタッフが、患者様の口の健康に寄与していきたいと思っております。インプラント治療にご興味のある方は、お気軽に当院担当医にお尋ねください。



口腔がん治療が可能となるばかりでなく、医療の安全性の向上も図れると自負しております。

本センターでは、口腔がんに対する様々な治療やリハビリを提供できます。標準治療であり最も実績のある外科治療から、放射線治療やカテーテルを用いた化学放射線治療などの切らずに治す治療も選択できます。また、術後の飲みこみや言葉のリハビリ、手術により無くなった歯を義歯やインプラントを用いて噛めるように回復させることも可能です。



特集3

気軽におしゃべりサイエンス♪

Science café@大阪大学歯学部附属病院が、開催されました。

大阪大学 21世紀懐徳堂・大阪大学歯学部附属病院・大阪大学大学院歯学研究所が共催する Science café@大阪大学歯学部附属病院が歯学部附属病院1階のCAFÉ de CRIÉで開催されました。このサイエンスカフェは、「大阪大学で行われている、最先端の多様な研究について知ってほしい」「地域の方が、気軽に研究者と交流できる場を大阪大学の中に作りたい」という思いから生まれており、「気軽におしゃべ

り」がコンセプトとなっています。1月26日(金)には、「一生、自分の歯で食べよう～今日から始める歯周病の予防と対策～」をテーマに村上伸也病院長が担当しました。一生、自分の歯で食事を楽しみ、体全体の健康を維持するために、「歯周病の原因」「歯周病と全身との関わり」「歯周病の治療法と予防法」に焦点を当て、最新の情報について分かりやすく紹介されました。会場では、集まった約30人の参

加者が、飲み物や焼き菓子を楽しみながら先生の話に耳を傾けました。後半の質問タイムでは、参加者からたくさんの質問もあり大変有意義な時間となりました。



「ソーシャル・スマートデンタルホスピタル キックオフシンポジウム」を開催

平成30年3月9日(金)に大阪大学銀杏会館にて「ソーシャル・スマートデンタルホスピタル(以下[S2DH]という。)キックオフシンポジウム」を開催しました。

S2DHは、本院と大阪大学サイバーメディアセンター及び日本電気株式会社が「スーパーコンピューティングと医療情報の融合」を目指しスタートした共同研究です。

シンポジウムでは、まず村上伸也病院長、西尾章治郎大阪大学総長、江村克己日本電気株式

社・取締役執行役員常務兼CTOから開会の挨拶が行われ、引き続き、中村祐一NECシステムプラットフォーム研究所長の基調講演、松村泰志大阪大学大学院医学系研究科教授の招待講演があり、その後、研究テーマについての発表、パネルディスカッションを行いました。

シンポジウムには、学外・企業関係者101名を含む、総勢約200名の参加があり、盛況のうちに終了しました。



西尾章治郎 大阪大学総長



村上伸也 病院長

「東洋医学を用いた痛みとしびれの治療」

歯科麻酔科 助教 大山口藍子

お口の
マメ知識



東洋医学は3000年以上の歴史を持つ医療体系です。西洋医学とは異なり、体質改善し、病気を予防しようとする(未病を治す)方法です。当科では東洋医学的治療法として漢方治療、鍼灸治療を行っています。これらは原因や病態が明らかでない疾患や、副作用などで西洋医学的治療が困難な場合に有用です。当科では顔面のしびれや慢性の痛みがある方に鍼灸治療を行っています。

東洋医学の診察は、一般的な歯科の診察とは異なり、手首の脈の拍動の強さ・緊張度(脈診)や、お腹の緊張度・圧痛(腹診)、舌の色・苔の色(舌診)などの五感による診察が中心となりま

す。これらの情報から「証(西洋医学では診断)」を決定していきます。では実際の治療方法の紹介です。漢方薬は植物、一部の動物、鉱物などの生薬を組み合わせた薬物で、多くの成分が含まれた野菜スープのようなものです。証に基づいて方剤を決定した後、食前または食間に、まずは2週間から始めていきます。



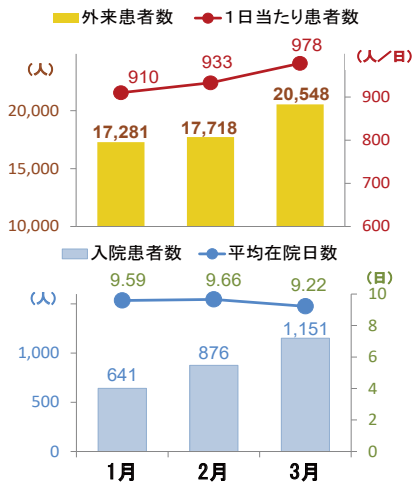
鍼灸療法は歯科医師の診察を受けた後、鍼灸師が施術しています(ただし当院では自費診療になります)。使用する鍼は、直径0.12mmの髪の毛ほどの細いタイプ

を使用しており、使い捨ての国産の鍼です。刺入時の痛みはほとんど感じませんし、出血もわずかです。いわゆる「ツボ」に鍼を刺して刺激を加えたり、鍼を電極として通電する方法もあります。また、手、足だけでなく症状によっては顔、顎、頭皮、舌、歯肉にも鍼を刺入しています。このような東洋医学的治療に興味をお持ちの方は当科までご相談ください。

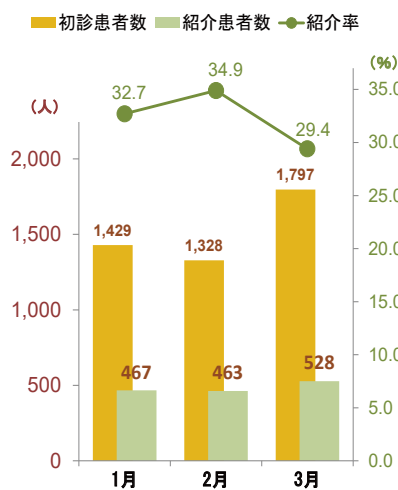


1月～3月患者数等統計

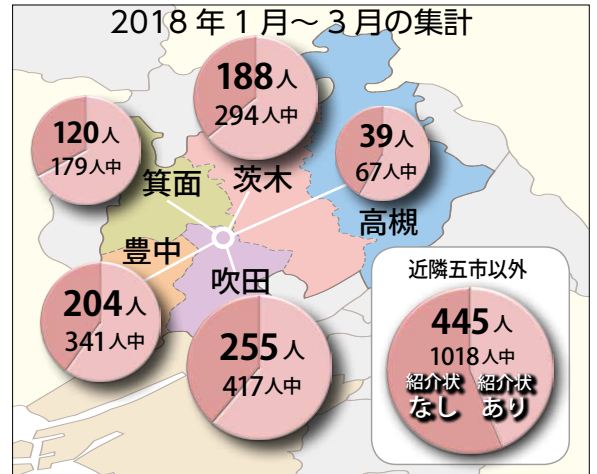
外来患者数・入院患者数



初診患者数と紹介患者数比率

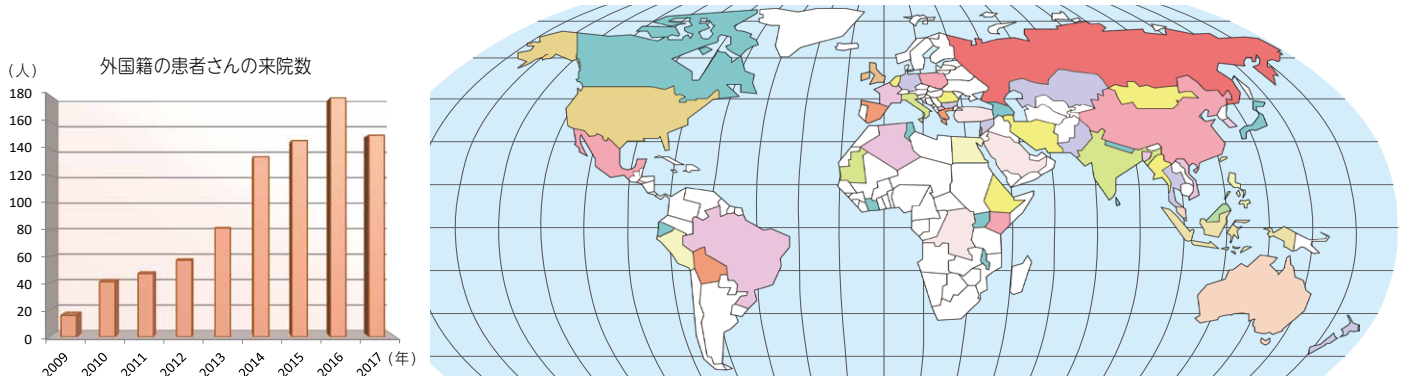


近隣五市の新来患者に占める紹介状持参患者数



外国籍の患者さんの来院数 (外来) と主な国籍の分布図

【主な国籍】…中華人民共和国、インド、インドネシア、タイ、韓国、フィリピン、マレーシア、ロシア、アメリカ合衆国、トルコ、イギリス、スペイン等



病院概要

診療日：月～金 休診日：土日祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

受付時間：【初診受付】8時30分～11時30分（初めて受診の方、紹介無し可）
【再診受付】8時30分～15時00分（原則として全科予約制）

住所：〒565-0871 吹田市山田丘1番8号

電話番号：（代表）06-6879-5111（時間外）06-6879-2848

標榜診療科：歯科、矯正歯科、歯科口腔外科、小児歯科

診療内容

口腔衛生指導、虫歯治療、歯周病治療、歯周再生治療、差し歯、入れ歯、インプラント治療、口腔癌治療、口唇口蓋裂治療、障害者歯科治療、摂食・嚥下、スピーチ治療、スポーツ歯科、口臭外来、ドライマウス外来、睡眠時無呼吸、歯の外傷治療等

電話による病気や症状に対する相談には再診料がかかることがありますので、ご承知ください。

夜間休日の緊急診療につきましては、あらかじめお電話(06-6879-2848)のうえお越しください。

入院患者さんへのご面会時間は、12時から19時となっております。

病院へのアクセス

http://hospital.dent.osaka-u.ac.jp/hospital/hospital_000009.html

歯学部附属病院にお車で越しの際は、西門（歯学部門）よりお越しください。なお、平日夜10時以降、土、日および祝日は、千里門よりお越しください。

看護師・歯科衛生士 募集中！

—お問合せ—

歯学研究科総務課人事係
06-6879-2834 まで

